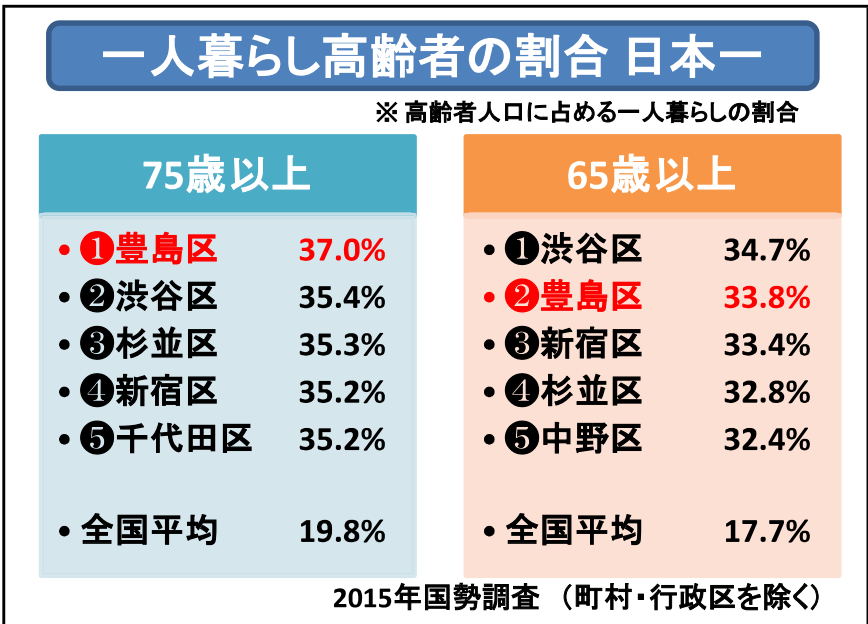
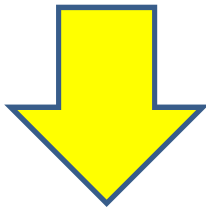


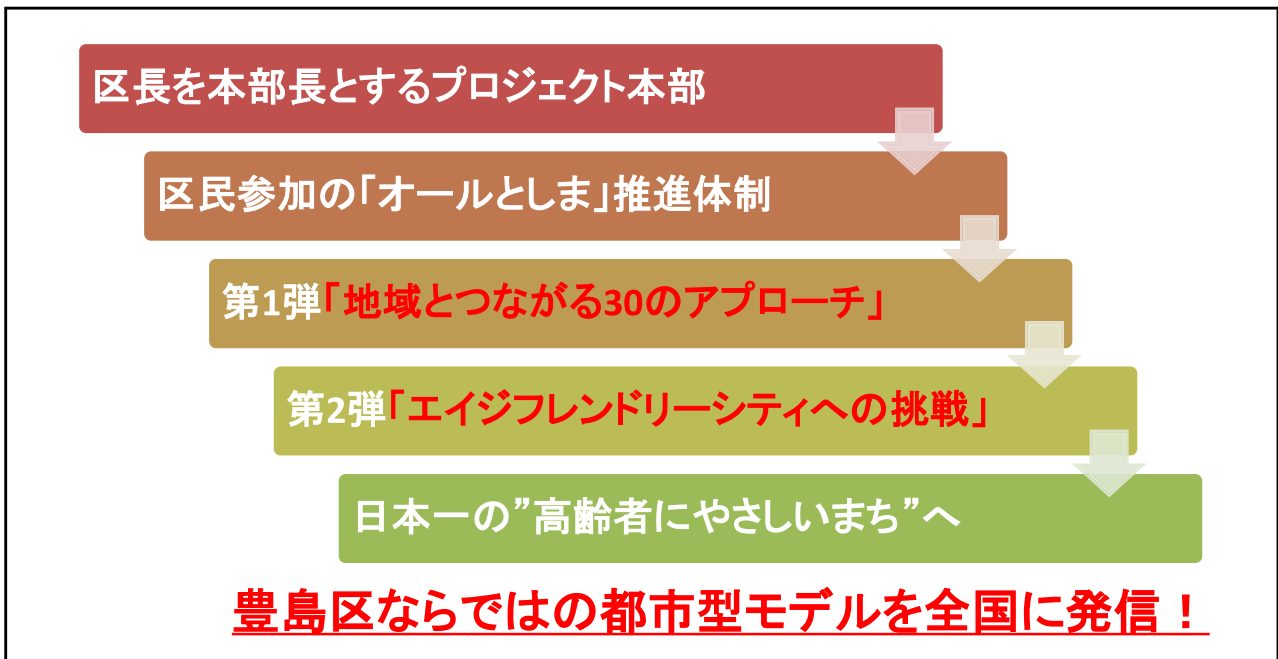
3 高齢になっても元気で住み続けられるまち

日本一の“高齢者にやさしいまち”を目指し、
「としま総合戦略」を推進します。

人口密度日本一の豊島区は、一人暮らし高齢者の割合も日本一です。一人暮らしは「社会的孤立」を生みやすく、社会的孤立は不健康や消費者被害、生活の質の低下などにつながります。



豊島区はこれまでの“文化”や“セーフコミュニティ”で培った「オールとしま」の力を最大限に活かし、全区を挙げて日本一の“高齢者にやさしいまち”を実現していきます。



★対策第1弾「地域とつながる30のアプローチ」

＜2019～2020年度の取り組み＞

★区民参加の推進協議会による「オールとしま」推進体制

公募区民、町会、民生委員・児童委員、高齢者クラブ、障害者団体、青少年育成委員、保護司、スポーツ団体、医療関係者、社会福祉法人、民間企業、NPO法人、警察、消防、大学等が参加する推進協議会を設置し、「オールとしま」による推進体制を構築

健康	安全・安心	文化・コミュニティ
【取組方針】 ・身近な地域での健康づくりの促進 ・疾病等の早期対応による重症化予防	【取組方針】 ・いざという時の相談支援体制の充実 ・一人暮らしでも安全・安心なまちづくり	【取組方針】 ・支え合いの地域づくりの促進 ・住み続けたい魅力的なまちづくりの推進
「フレイル対策センター」 「高齢者の服薬情報提供事業」 など10の対策	「福祉包括化推進体制」 「在宅医療連携体制の強化」 など10の対策	「CSWの強化」 「地域区民ひろばの充実」 など10の対策

★対策第2弾「エイジフレンドリーシティへの挑戦」

＜2021～2025年度の行動計画策定＞

「エイジフレンドリーシティ(高齢者にやさしいまち)」とは、世界的に進行する高齢化に対応するため、高齢者にやさしいまちがあらゆる世代にやさしいまちになるという趣旨のもと、WHO(世界保健機関)が2007年に提唱したプロジェクトです。

豊島区はWHOグローバルネットワークに参加し、他都市と切磋琢磨しながら、**世界基準の”高齢者にやさしいまち”**を実現していきます。



出典：WHO健康開発総合研究センター「WHOの高齢化と健康への取り組み」